

1 目的

- (1) 令和6年度校内研究の主題を受け、重点をおいた視点による授業実践とその授業の評価において情報交換し、カリキュラムマネジメントの視点を含めつつP D C Aサイクルに取り入れることで、児童生徒の確かな学びにつなげていく。
- (2) 授業提案ごとに略案を作成し、その中で児童生徒の実態と評価の視点について確認することで、授業づくりに生かす。
- (3) 課題点、改善点を確認することで、P D C Aサイクルの視点で次の授業改善へとつなげていく。
- (4) 各教科等を合わせた指導の授業実践を通して、単元または授業の中に含まれている教科等についての確認と、現行の年間指導計画についての再確認を行う。

2 研究内容

- ・生活単元学習に絞り、2年生(2回)、3年生、4年生、6年生の研究授業及び授業研究会を実施した。
- ・授業者(授業担当学年)には略案を作成していただいた。(研究部から提案の新しい様式)
※第1回、第2回については略案ではない
- ・「主体的な学び、対話的な学び、深い学び」の目指す具体的な児童生徒の姿や手立てについて、及び、観点別評価について目標の設定ポイントや評価規準の設定ポイントを、昨年度配布の資料により再確認しながら進めた。
- ・協議は、①目標、内容、手立て、評価が児童の実態に合っていたか。②「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえながら、目標や内容、手立てが立案されていたか。を中心に行った。
- ・新教育課程編成の取り組みを踏まえ、単元及び授業に含まれる教科内容についての確認を行った。(略案及びアンケートによる)

3 実施研究授業

- (1) 第1回研究授業 ア 小学部3年、イ 小学部4年
指導案より ア

日 時 令和7年7月16日(水) 2校時(9:35~10:20)

場 所 小学部3年3組教室

対 象 通常学級5名(男子4名、女子1名)

授業者 湊 彩夏(T1)、武田 夕加里(T2)

1 単元名

「3ねん3くみオリジナルかるたをつくろう(6月・7月)」

8 本時の計画(3/5)

(1) 本時の目標

- ①できることや得意なことを活かし、かるた作りに取り組むことができる。
- ②活動内容や自分の役割を理解し、自分で判断したり工夫したりしながら読み札や絵札を作ろうとする。
- ③自分から進んでかるた作りに取り組もうとする。

指導案より イ

日 時 令和7年7月17日(木) 4校時(11:10~11:55)

場 所 小学部4年1・2組教室

対 象 通常学級7名(1組4名、2組3名/男子4名、女子3名)

授業者 菅原 朱音(T1)、田高 美佳(T2)、似内 晃(T3)

<p>1 単元名 「プラネタリウムに しょうたいしょう」</p> <p>8 本時の計画（9／12）</p> <p>（1）本時の目標</p> <p>①自分の考えを友達や教師に伝えることができる。</p> <p>②友達と協力して作業や役割に取り組もうとする。</p>

（2）授業研究会及びアンケートより

① 目標、内容、手立て、評価が児童の実態と合っているか。

	良い点	改善すべき点
ア 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を理解し取り組むことができる、という実態に合っており、適切だった。 ・子どもの興味関心をひく題材にしていた。 他多数 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドカッターだけでなく、型抜きパンチを使ってみてはどうか。 ・もっとすっきり黒板の掲示がされていた方が分かりやすいのではないか。 他
イ 4年	<ul style="list-style-type: none"> ・得意なことを活動に取り入れることで、集中や見通しにつながった ・友達と一緒に、役割を理解し取り組んでいた。 他多数 	<ul style="list-style-type: none"> ・各児童（各グループ）の目標があっても良いかと思った。 ・説明の仕方を考えたり、練習する時間が持てたりすればと良いと感じた。 他

② 「主体的・対話的で深い学び」の視点で目標や内容、手立てが立案されているか。

	良い点（多数意見）	改善すべき点
ア 3年	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもつ 他 ・見通しをもつ 他 <p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員との対話 他 ・自己の考えを広げる 他 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かす 他 ・情報を選ぶ 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・良い題材なので、もっと時間をかけて取り組み、深めたり広げたりすれば良い。 他
イ 4年	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもつ 他 ・自分で振り返る 他 <p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の協働 他 ・教職員との対話 他 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かす 他 ・知識をより深く理解する 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・T1が招待客としてやってみた後に、頑張り工夫した点などを話し、次回の招待客へつなげて良い。 他

③ 本単元に含まれている教科は何か

	授業者	参観者より
ア 3年	<p>生活 ウ日課・予定 エ遊び カ役割</p> <p>国語 知識・技能 A聞くこと・話すこと B書くこと</p>	<p>生活（遊び、役割、人との関わり）</p> <p>国語（文章を考える、体験を言葉にする、聞く、読む、書く）</p> <p>算数（数と計算、図形）</p> <p>図工（切る、塗る、表現）</p>

	算数 A数と計算 図工 A表現	
イ 4年	生活 オ人との関わり カ役割 サ生命・自然 国語 A聞くこと・話すこと B書くこと 算数 B図形 図工 A表現	生活 (人との関わり、役割、生命自然、身近な人々との接し方) 理科 (天体・星) 社会 (調査活動) 国語 算数 (形) 図工 (色、制作)

(3) 次に向けての改善案

ア 3年	・読み札と絵札の色を分けたらどうか ・道具類、材料等の置き方を工夫すると一人でできる作業が増えるのではないかと。 等
イ 4年	・ホワイトボードや前に貼る表示について、多いので整理した方が良い。 ・自分で考える時間をもう少し作ったらどうか。 等

3 第2回研究授業 ア 小学部2年、イ 小学部6年

(1) 指導案より ア

日 時	令和7年9月29日(月) 3校時(10:25~11:10)
場 所	小学部2年2組教室
対 象	通常学級5名(男子2名、女子3名)
授業者	工藤 萌生(T1)、鈴木 直子(T2)
1 単元名	「あさがおの花びら染めをしよう」
8 本時の計画(4/6)	(1) 本時の目標 ①材料や用具の使い方が分かり、制作することができる。 ②作りたい模様を選ぶことができる。 ③自分から進んで制作活動に取り組もうとする。

指導案より イ

日 時	令和7年9月30日(火) 5校時(13:00~13:45)
場 所	小学部6年1組教室
対 象	通常学級4名(男子4名)
授業者	釜石 琉衣(T1)、藤森 由美子(T2)
1 単元名	「食べ物について考えよう」
8 本時の計画(12/15)	(1) 本時の目標 ①食材についてまとめ、生産方法や生産している人がいることに気付くことができる。 ②体験したことや自分の考えを文字やシール、写真を使って学習プリントにまとめようとする。 ③自分から進んで活動に取り組もうとする。

(2) 授業研究会及びアンケートより

① 目標、内容、手立て、評価が児童の実態と合っているか。

	良い点	改善すべき点
ア 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容が分かり、教師の手を借りながら意欲的に取り組んでいた ・挙手をしたり、自分で活動を進めたりしていた 他多数 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り場面で、どちらを自分が作ったか本人に指差して選ばせても良かった。
イ 6年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、単元を楽しんでいる様子だった。意欲をうまく引き出せる題材、教材の工夫、活用ができていた。 他多数 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントのサイズを大きくした方が良い。 ・生産方法などについてはどこまで理解が深まっているだろうか。 他

② 「主体的・対話的で深い学び」の視点で目標や内容、手立てが立案されているか。

	良い点 (多数意見)	改善すべき点
ア 2年	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもつ ・見通しをもつ ・本時以前の学習により、手順に見通しをもっていた 他 <p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員との対話 他 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かす ・情報を選ぶ 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・染色液を入れたバケツの中が見える、透明または浅めの物だと、染めている様子が見えて良い。
イ 6年	<p>【主体的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心をもつ ・自分で振り返る 他 <p>【対話的な学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員との対話 ・子ども同士の協働 ・ロイロノートの活用 他 <p>【深い学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識をより深く理解する ・単元の工夫 (4つの活動×3回) で見通しや深い学びにつながっている。 他 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食育」に関するテーマが良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善ではないが、低学年からの積み上げ、継続が大切だと感じた。

③ 本単元に含まれている教科は何か

	授業者	参観者より
ア 2年	生活 イ安全 ケきまり サ生命・自然 国語 思考判断表現 A聞くこと・話すこと B書くこと	生活 (生命、自然) 理科 (生物) 国語 (話す) 図工 (表現、鑑賞)

	図工 A表現 B鑑賞	
イ 6年	生活 キ手伝い・仕事 ク金銭の扱い 国語 A聞くこと・話すこと B書くこと 算数 A数と計算 C図形	生活（金銭） 社会（農業、地域の生活） 算数（計算） 家庭科（食物）

(3) 次に向けての改善案

ア 2年	・絞り方の工夫(洗濯ばさみ絞り、太さの変化、手絞りなど) ・エプロンを着用して作業したら良い。	等
イ 6年	・机上の整理や剥離紙入れの用意などがあれば良い。 ・中学部、高等部に向けて課題が終わったら報告する流れを行った方が良い。	等

4 第3回研究授業 小学部2年

(1) 指導略案より

日時	令和7年12月2日（火）3校時（10：25～11：10）
場所	小学部2年1組教室
対象	通常学級5名（男子2名、女子3名）
授業者	杉澤 麻希（T1）、山岸 博文（T2）
1 単元名	えほんだいすき「せんろはつづく」
8 本時の計画（7／10）	
(1) 本時の目標	
	①物語に出てくる場面や登場人物を簡単な言葉や身振り手振りで伝えることができる。【知識及び技能】
	②物語の場面ごとの様子を身近な材料や道具を使って表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】
	③物語を楽しみながら見たり聞いたりすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 授業研究会より

① 目標、内容、手立て、評価が児童の実態と合っているか。

<ul style="list-style-type: none"> ・身近な絵本を題材にすることで意欲的に活動できていた。 ・自分の興味、関心のある題材で意欲的に取り組んでいた。 ・絵本の読み聞かせを繰り返し行っていることが積み重なっていた ・それぞれの児童のできる方法で、絵本に出てくる場面を表現していた。 ・以前の学習で覚えた言葉を使って、場面を伝えることができていた。 ・必要な道具を自分で考えることができるような言葉掛けをしており、主体的な学習ができていた。 <p>他多数</p>

② 「主体的・対話的で深い学び」の視点で目標や内容、手立てが立案されているか。

<ul style="list-style-type: none"> ・絵本に出てくるお話と実体験を重ね合わせ、想像しやすい内容が良かった。 ・読み聞かせ、パネルシアターを見る、制作するなど繰り返し取り組むことで、見通しをもち主体的に学ぶ姿勢ができていた。 ・パネルシアターをしながら児童に問い掛け、一人ひとりと対話しながら授業が展開されていた。 ・子どもたちの「つくりたい」気持ちを尊重し肯定していた点が良かった。 ・絵本の読み聞かせやパネルシアターでの児童の発言が多かった。制作をする前にイメージをもち期待感をもって取り組んでいた。

- ・イメージを膨らませながら楽しそうに制作に取り組んでいた。
- ・個別に制作したものをまとめ、みんなで遊ぶことで達成感や一体感を得ることができた。
- ・歌に合わせた発表方法が良かった。
- ・どの児童も自分から列車をもってうれしそうに走らせていた。満足感や成就感が表れていてとても良い児童の姿だった。

他多数

③ 本単元に含まれている教科は何か

- ・生活 オ人との関わり カ役割
- ・国語 A聞くこと・話すこと C読むこと
- ・図工 A表現

(3) 次に向けての改善案

- ・オリジナルストーリーを作ってみてはどうか。(例 電車で〇〇へ行く)
- ・電車にカメラをつけて見せたら、線路を走っている感覚が味わえるのではないかと。 等

5 学部研究のまとめ(成果と課題)

(1) 成果

- 昨年度までの学部研究において、児童の観点別評価について理解が進み取り組みが十分に行われていることが確認できたので、本年度は、目標や内容、手立て及び観点別評価の評価規準という立案部分に焦点を当て、意見交換を行うことができた。
- 各授業において、指導案(略案)と実際の児童の姿を照らし合わせることにより、児童の実態を的確に捉えた上で、単元や各時の授業が立案されている点を確認された。
- いきいきと授業に取り組む児童の姿から「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた目標や内容、手立て、評価規準による授業が、児童の学びに対する意欲や成就感・達成感に結びついていることが確認された。
- 昨年度と同様に、良かった点を含め、目標・内容・手立てなどについて様々な視点から意見が出された。改善すべき点の他、活動をより広げるための展開案などもあり、次の授業につながる意見交換ができた。
- 略案の様式については、研究部から全校統一した様式での提案があり、それを活用することができた。

(2) 課題

- 本2年次研究により、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点による授業改善及び、「観点別評価」の取り組みは小学部職員間で共通理解され、児童の学びにつながっていることが明確となった。多忙化が言われる中でも、各職員が日々の授業においてその努力を積み重ねていることが推察される。
- 生活単元学習のみならず新教育課程に移行後の各教科においても、これまでの成果を活かしていくために、職員間の共通理解が必要であると考え。しかし、授業研究会の形が職員に必要以上の負担感を感じさせるものであったことは否めない。
- 小人数に分けたグループでの意見交換や、第1回第2回で試行した短時間でのグループ協議などは、取り組みやすいものであったと思われる。
- グループ別や時間を決めた研究協議など方法を工夫することにより、日々の授業を振り返る機会を増やし、職員間の情報共有・共通理解を深めることができるのではないかとということ、次年度に向けて提案としたい。